

## 2004年度 サロン 2002 総会 議事録

【日時・会場】 2004年5月22日(土) 15:30~18:00 味の素スタジアム内会議室

【総会出席者】 19名

麻生征宏 安藤雄一 伊藤彰 今川良子 梶野政志 川井寿裕 熊谷健志 高橋義雄 土谷享  
徳田仁 内藤隆 中塚義実 中村敬 本多克己 宮崎雄司 村木初年 両角晶仁 山中麻耶  
依藤正次

【議事録作成者】 山中麻耶

<目次>

### ◆ 議決成立要件

### ◆ 議題

報告Ⅰ. 2003年度事業報告および決算

2003年度事業報告

決算報告

報告Ⅱ. 2004年度会員募集について

報告Ⅲ. 役員会報告および2004年度役員について

審議Ⅰ. 「執行役員」について

審議Ⅱ. 2004年度事業計画および予算

審議Ⅲ. これからのサロンの方向性について

### ◆ 議決成立要件

2004年度会員数(総会時): 116名

出席者数: 19名, 欠席連絡者: 67名, 合計86名 定足数に達した.

資料: 2004年度サロン2002総会議事進行表, サロン2002: 2003年度末役員会報告、

2003年度決算報告(案)、2004年度予算(案)、サロン設立宣言、サロン2002規約

議長: 規約第10条3より代表者中塚義実

### ◆ 議題

報告Ⅰ. 2003年度事業報告および決算

2003 年度末役員会報告とあわせて見ていく。

サロン 2002 は、80 年代後半からやっていた研究会、「社心グループ」を母体としている。90 年代を通してこの組織が発展してきた背景にインターネットや電子メールの普及があり、サロン総会および役員会もメールのやりとりで行われることが多い。2003 年度末の役員会も、電子メールのやり取りにより、2004 年 3 月 2 日～3 月 24 日に意見交換をした。参加者は次のとおり。

代表：中塚義実

幹事：内田正人、宇都宮徹壺、笹原勉、長岡茂、本多克己

監査役：仲澤眞

会計・名簿担当：川井寿裕

ML 担当：湧田龍治

2003 年公開シンポジウム担当：上間匠

活性化プロジェクト：安藤裕一 内藤隆

役員会報告のメールは 3 月末に 2003 年度会員には送っているのですが、継続会員の方は一度目を通してはいるはずであるが、新規会員ははじめてのため、2003 年にどのような活動をしたかをみていきたい。

## 2003 年度事業報告

### 1) 月例会

毎月行われた。決算報告月例会決算（2003 年度）p4 参照。

参加者から毎回 1000 円参加費を徴収することで、月例会は独立採算で運営している。発表者への謝金（10,000 円）、報告者作成費（5,000 円）が必要経費である。2003 年度は会場費のかからない所で行われたため、会場費の出費なし。参加者全員のディスカッションのときがあったので、11,000 円の残金が出た。残金は、全体会計に繰り入れた。

### 2) プロジェクト

会員がプロジェクトを組織して、より濃い意見交換をしながら何らかの方向性を示したりアクションを起こすことがある。2002 年度までに立ち上がったプロジェクトは、「ワールドカッププロジェクト I・II」及び、フットサルの組織化に関してサロンとして提言を行った「フットサルプロジェクト I」がある。

2003 年に立ち上がったプロジェクトは「サロン 2002 活性化プロジェクト」という、内向けのものである。去年の総会時に、「ワールドカップ後、どうやってサロンの活動を活性化させていくか」が議題となり、そのようなことをプロジェクトで取り上げたらどうかということからできた。会員対象のアンケートを実施し、6 月の月例会で問題提起を行ったが、年末に提言を行うという当初の目標は達成されぬまま活動休止状態に。しかし、「月例会の出席者をあらかじめ確認する」ことが試行されたのはプロジェクトの成果の一つといえる。

プロジェクトとは言っていないが、毎年「公開シンポジウム」を行っており、これがサロンの活動の柱の一つとなっている。昨年度は、東京体育館で8月2日に「地域で育てるこれからのスポーツ環境」をテーマに行った。告知が行き届かず、参加者が少なかったのが残念だが、参加者はいずれも満足していた（感想より）。シンポジウムの内容は報告書にまとめ、都道府県のサッカー協会など、関係諸機関に無料で配布している。また、希望者には一部 500 円で販売している。報告書には、シンポジウムの内容だけでなく、サロンの会員により特別寄稿がのっている（刈谷市サッカー連盟、清水サッカー協会、神戸FC、成岩スポーツクラブ、及び大分県の現状と課題）。内容的にも面白い。50 部くらい筑波大学附属高校に残部があるので返信用封筒とともに送れば入手可能。

### 3) 出張・合宿・お出かけサロン

月例会は都内で行うことが多いが、お出かけ企画がいくつかある。出張・合宿・お出かけの違いはあまりないが、遠いのが「出張」、近いのが「お出かけ」か。2003 年度は、9 月に熊本で日本体育学会があったときに「日本フットボール学会」の設立総会があり、それに日程を合わせて9月の月例会を大分で行い、地元の方とディスカッションの場を設けた。

出張やお出かけに関してサロンからお金を出すという話もあるが、2003 年度は全て自己負担で行われた。

### 4) 情報発信

毎月送信される「サロン 2002 通信」と、全会員が加入している「公式メーリングリスト」が会員の情報交換の場。メーリングリストでは貴重な情報が交換された一方で、「サロンの ML にあう話題を提供しにくい」「BBS があれば」との意見があった。

外部への情報発信は「サロン 2002 オフィシャルサイト」があり、本多の(株)クラブハウスで更新して頂いている。

### 5) その他

サロンの公式プロジェクトではないが、サロンの会員が、JFA と Jリーグの今後の連携を探るためのミーティングを行った。具体的には、Jリーグアカデミーの山下則之の呼びかけで、中塚義実、仲澤眞、鈴木崇正、中村淳らが月1回ペースで作戦会議を開き、プレゼン用資料にまとめた。

## 決算報告

報告者：川井寿裕

資料：2003 年度 決算報告（案）

### I. 収入の部

会費の受入は 105 名（会員：101 名。振り込むが名簿または意思表示のない方：4 名）。

入会の希望はあったが、数回の督促においても会費の振込みがなかった方が 1 名。合計で 239,000 円

の振込みがあった。月例会参加費受入は 11,000 円。預金利息受入 3 円。前年繰越金 155,982 円。  
収入合計：425,985 円。

## II. 支出の部

### 1. 事業費

#### (1) プロジェクトの補助

プロジェクトは特別会計で行っている。「公開シンポジウム 2003」が、最終的には 94,992 円のマイナスになったため、全体会計から補助金を支出。内訳は公開シンポジウム会計報告参照。

#### (2) 名簿の作成：51,000 円

#### (3) 通信費： 61,200 円（毎月送っている月例会や報告の案内）

#### (4) 郵送費： 23,160 円

#### (5) 消耗品費：2,003 円

#### (6) メーリングリスト契約料：6,300 円

#### (7) 振込手数料：420 円

### 2. 次年度繰越金：186,910 円

支出合計：425,985 円

補足・中塚：

通信費は、@50 円×102 名×12 月分。月例会報告は HP 上で会員でなくても見られるが、会員のメリットは月例会案内が届くこと。案内がハガキで送られてきた場合として単価 50 円で計算している。

高橋： 通信費とするよりも事務手数料にしてはどうか。 → あとで議論

## 報告 II. 2004 年度会員募集について

### ◆会員とは

これまでは年度が改まると新規に会員を募集する形にしていたが、2004 年度からは継続会員については「退会の意思表示をしない限り、会員である（名簿に記載される）」という考え方に立った。それぞれの活動が"ゆたかなくらしづくり"を目指しているのであれば OK だし、長い目でみて"Give and Take"の関係が成り立っていればよい。サロンとその仲間を "応援したい"人も、そのネットワークに入ってもらいたい。

### ◆会員の手続き

「名簿へ掲載する自己紹介文」と「会費納入」とする。

### ◆募集期間

3 月 25 日～4 月 20 日の期間に募集した（若干延びた）。

◆現時点で入会の意思表示をした人は 116 名（昨年度は 102 名、未納 1 名のため 101 名）。新規会員や一度離れたがまた会員になった方も何人かいる。116 名中、会費納入者は未確認。

◆ 2003 年度会員で退会（休会）の意思表示をされたのは、根本いずみ氏と水上博司氏（その後、影山茂久氏も追加された）。

#### ◆ 名簿

印刷屋さんまわっているところ。去年とは異なり、項目ごとに枠を入れた。また、検索用として、おもに関わるスポーツ種目や文化活動、関わり方、主な活動地を入れた。

名簿は 6 月初めに届く予定。名簿はサロン会員のメリットでもあるので有効に使っていただきたい。

#### ◆ 会費入金時の注意

振込者名にサロン 2002 と書いて振り込んでしまうと、誰が振り込んだのか特定できないので注意。

### 報告Ⅲ．役員会報告および 2004 年度役員について

2000 年度から会員制の組織になり、役員（代表者 1 名・幹事 5 名・監査役 1 名）、事務局（会計兼名簿・ML 管理人・HP 担当）ができた。だいたい 2 年周期で交代している。

2004 年度は、代表者はサロン 2002 規約附則 3 より中塚義実とし、代表者が倒れたとき(?)に代表の業務を執行する代表代行幹事は本多克己。幹事は、安藤裕一、宇都宮徹壺、笹原勉、田中俊也、監査役は高橋義雄となった。事務局は、会計兼名簿は川井寿裕、ML 管理人は湧田龍治、HP 担当は本多克己および福岡哲朗となった（表 1 参照）。

#### 提案・本田

2000、2001 年度には堀美和子さんが入っていたが、2004 年度はいつのまにか男性だけになっている。女性の方がいてもいいのではないか。女性の方がいると男性だけでは気付かない視点が入る。

### 審議Ⅰ．「執行役員」について

#### 1. 経緯

役員に名を連ねている方々は、なかなか身動きがとれない状況にある。若手活動家の育成ということも含め、もう少し動ける人に中心に関わってもら方がいいのではないかという議論から、笹原勉の提案で「執行役員」を置いてはどうかという話になった（2004 年度サロン 2002 総会資料 p4 参照）。サロンはすべての会員の高い当事者意識がベースにあり、「中心と周縁」ができるのは望ましくないが、誰

かが引っ張っていく必要もある。

笹原提案は次のとおり。

- (1)現在の役員はお目付け役、ご意見番としてあと2年間継続する。
- (2)一方、執行役員のような役員を新たに5名ほど選考する。
- (3)基本的にサロンが行っているすべての業務を各新役員に振り分け、担当分野についてはその人が責任を持って行うことにする。
- (4)新役員は、大学生等比較的時間が使える人や、若手でスポーツ関係の職業についている人、中塚さんの教え子などの中から一本釣りを選び出し、就任を頼み申し込む。若い人が望ましい。新役員に次世代の活動家となることを期待している。

## 2. 執行役員候補（表1参照）

本年度からは、執行役員というかたちで実働部隊や若手の活動家の育成を行ってもらうことになった。執行役員候補として、麻生征之、内藤隆、中村敬、安松幹展にお願いしている。

### <ディスカッション>

両角： 執行役員をこのまま役員ということにするだけでも規約を見直さなければならない。役員会には決算の承認などを委任しているので、その関係を整理しなくてはならない。いま、役員は代表者・幹事・監査役という定義になっているので、そこはどうなるのか。仮に変えたとして、新構成メンバーによる役員会の権限はこの規定通りでいいのか。今回の執行役員は、今までの代表・幹事・監査役といった役員会に加わり構成されるのか。

中塚： これまでも、役員会メールは、役員外の川井さんと湧田さんにも送っている。そういう意味でも役員会の厳密な定義をした方がいいかもしれない。

両角： 附則5「事業計画及び予算については、当分の間、第13条の役員会の議決をもって第11条の総会の議決があったものとみなす」というように、役員会に委ねられている。役員会に入るような性格のものとして若手の執行役員を入れておくという話であれば、執行役員を第7条の四項に作ればよい。しかしそうではなく、あくまでもサロンのコントロールは現行役員会が行い、実働部隊として執行役員をつけるのであれば第7条の中に入らない。川井さんの会計兼名簿などは、役員会ではなく事務局になるので、執行役員も事務局員として扱うか。第7条の四項としておこなうのか、第7条の2をつくりそこで起こすかということ。

NPOをイメージすると、幹事は理事に、代表は理事長になる。執行役員を、今の役員会とは別に、実働部隊であるが全体的に深く関わるというものとするならば、役員会が持っている権限を理事会に変え、執行役員という名前を生かすことができる。そして執行役員の中で各担当を決める。例えば会計担当の執行役員など。

中塚： 「幹事」と言っていたのを、「理事」にしましょうか。

本多： 会計兼名簿やML担当を「事務局」という名前を使う。事務局・会計兼名簿担当や事務局・ML担当と言うのはどうか。

両角： 「事務局」を「運営委員」と言うのはどうか。

中塚： 従来「幹事」と言っていたものを、一般的な非営利団体の名称に合わせて「理事」に改める。

代表者は「理事長」。代表代行幹事は「副理事長」。監査役は「監事」。

理事長・副理事長・理事・監事を「理事会」。

会計兼名簿・ML 管理人・HP 担当・執行役員は「運営委員（仮称）」。

両角： 今のイメージですと、第7条の二で運営委員をおこすのでいいですか。

中塚： 第7条

一 理事長 1名

二 理事 5名

三 監事 1名

2 理事長は、サロンを代表し、サロンを運営する。

3 理事は、理事長を補佐する。

4 理事のうち1名は、理事長が欠けた場合に理事長を代行する。

理事長代行となる副理事長はあらかじめ理事長が指名した者とする。

5 監事は、サロンの事業および決算について監査する。

このような形で文言の修正をしましょう。ここで細かな文言を詰めるのは大変なので、大枠の方針を定めましょう。とりあえず役員会に関する部分の方向性は示しました。

両角： 代表者を理事長という名前にする。幹事を理事という名前にする。監査役を幹事という名前にする。それと他に、現行の役員会には入ってこないが実働部隊として「運営委員（仮称）」を置く、ということを決しておいてもらえればテクニカルの部分だけで済む。決まっていないのは、新しい実働部隊の名前。

高橋： 名前は後で決めたらどうですか。

中塚： 会計兼名簿やML 担当の部分を総称してどのように呼ぶかは、運営委員会や事務局という呼び方があるかもしれないが、それはテクニカルなところで案を作って頂いて、いつものようにサロン通信で、この場所に来ていない人からもアドバイスをもらい、期日を決めて確定しましょう。ここで「執行役員」と書かれている若手活動家の方々も、会計兼名簿・ML 管理人・HP 担当と同列になります。

高橋： 名前について決めてもらったものを、理事会の権限によって決めていいかをこの総会で承認を得れば、5人にメールを送るのですむ。メールだけで3分の2に賛成をもらうというのは大変な事になる。

代表に委任するということを決めましょう。

つまり、テクニカルな部分を直してもらい、名前については役員会（理事会）が決断します。

→ 承認された

## 審議Ⅱ．2004年度事業計画および予算

### <事業計画（案）>

1. 月例会 2. プロジェクト 3. 出張・合宿・お出かけサロン

中塚： 月例会の担当を、実働部隊（執行役員）を含めて決める。例えば、この月は本多さんが担当して関西で開催するというように考えていくと、出張サロンまで見えてくるのではないかな。

ここでは、月例会を確定できる月を埋めていくのと、取り上げてみたいテーマがあれば提案していただき、出張・合宿・お出かけサロンを含めた全体で議論したい。

まず出張サロンとして、群馬の小林俊文氏から、「出張サロン in 伊香保」が提案されている。伊香保はフットサル場も近くにあるし、ザスパ関係者の話を聞くことができるのでどうかという提案である。また「出張サロン in 成岩」は、成岩スポーツクラブのクラブハウスが去年 12 月に完成したので、そこでやろうという話がある。この 2 つは実現させたい。

高橋： 成岩は愛知県にあり、いま中学校の体育館を改修して総合型地域スポーツクラブのクラブハウスを作っている。3 階立ての体育館で、喫茶室・お風呂・屋上に人工芝のフットサルコートとテニスコートがある。文部科学省のモデルに基づいて作られている。

中塚： 今回役員をお願いするにあたり地域性を考えた。例えば田中さんは富士市でいろいろなネットワークがあるし、高橋さんは名古屋、本多さんは関西といったように、それぞれのところでサロンの会ができたらいと思う。それが月例会の中に入れてきてもいい。

本多： 伊香保と成岩の出張サロンは時期的にいつぐらいになるのでしょうか。

中塚： まだ決まってない。それが一番ポイントとなってくるのですけどね。

本多： 伊香保の担当者は、という感じで決めていくのは。

熊谷： どこに何が入るかを決めてから、それには誰が適しているかを決めるのはどうか。

シンポジウムと月例会は別ですか。

中塚： 別にやったときもあるが、去年は 8 月のシンポジウムを月例会としてやった。まず、夏のシンポジウムの話からしましょう。シンポジウムは、サロンの中核イベントとして位置づけたい。何かに向けて集中的に集まるのは組織としてもいいことではないか。ここで何を取り上げるか、いつぐらいにやるか。夏のシンポジウムは、これまでは土曜日開催にしているが、土曜にすると必ず J リーグと重なる。7 月の終わりから 8 月のはじめあたりはどうか。

ワールドカップ前は「ワールドカップに向けて」であり、ワールドカップ直後は「ワールドカップを振り返って」を取り上げた。ワールドカップ後の 2003 年は「地域で育てる」として行った。次をどうするか。今ひとつ思っているのは、「toto」についてできないだろうかということ。

両角： 最近は toto についての苦情のお手紙が多く、当てにしていたのに何とかしてくれと言われる。

中塚： 順番でいうと、ワールドカップがありました、ワールドカップで地域が盛り上がりました、それを繋げていきましょうというのが 2003 年のテーマ。そしてそれを繋げる環境作りとしてお金が必要ということから、もう一回 toto を見直そうという感じでいけばよいのではないか。

両角： オリンピックが終わってからを目標に、J タウンの地方紙と組んでイベントをやっていく話を動かし始めている。もう一度原点にもどって理念から普及していきたい。地方紙と組んで、例えば老舗のデパートの催事場などを借りて、円谷選手のシューズなどを貸し出したり、J のチェアマンにお出まし願ったり、例えば、大分スタジアムで使ったマルチボールを地域の少年サッカーチームにプレゼントしたりなどについて考えている。すでに関係者の大方の了解も取れている。もう一回、理念や地域スポーツについて考えるということを我々としても考えている。その催事場で、地域スポーツクラブなどパネル展示を出してもらいたいと考えている。地方紙とは 6 月の下旬からで、J の了解もあらかじめ取っている。これから J 2 に上がろうとしている自治体も興味をもっているようである。

中塚： 地域スポーツを考える一貫で、toto を取り上げてシンポジウムをやりたい。少しだけ気になって



いるのは、toto が始まる際に、一部の会員から「toto にはあまり賛成できない」という話があったように思う。サロンとして私たちは toto を応援しているということを出し出しているのか。

本多： 打ち出しもいいのかも含めて考えるシンポジウムにするのはどうですか。

中塚： 広い視点で捉えればいいかな。

両角： シンポジウムの募集の仕方にもよるが、強固に、思想的に反対している人が大挙して参加して来る可能性も考えなければ。

中塚： 最近そういった人たちの動きがあまり見られないのでは。

両角： まだあります。最近では矛先がかわり、昔はコンビニの前で子どもたちが赤鉛筆をはさんで予想紙に○をするという言い方をして反対していたが、最近では「売れないのだからやめろ」と言っている。

中塚： テーマに対して特に異論がなければその線で行きたい。toto という言葉は出したい。時期は夏でなくてもいいが、シンポジウムだけはある程度日程を決めておきたい。

本多： 売り上げがどうであったというというタイミングで話をする、あるいは来シーズンに向けてこうですよみたいな発表も兼ねてするのか。

両角： 来期からこうやりますと言えるのは、おそらく 9 月になってから。自分の想定しているスケジュールではそのあたり。参議院選挙の前は動きづらいでしょう。選挙が終わってからで 8 月いっぱい決めればという感じなので、それからでない新しい方針はだせない。一番ネックになっているのは、toto には 100 万通り以上の選択肢の toto と toto ゴールしかないこと。もう少し理念の訴求といった、おじいちゃん、おばあちゃんでも宝くじ感覚で買おうかね、という市場にも手をつけたい。そうすると 100 万通りもあると少しやりづらい。その制限が撤廃されれば。そうしてほしいという意見は多い。しかし、もともと法律自体が政府提案ではなく議員提案のため、法律を提案したスポーツ議員連盟のご意見を聴きながら進めないといけない。議員連盟が本格的に検討を始めるのは、おそらく参議院選挙が終わってからなんです。

中塚： その前だとあまりものが言えない感じですか。

両角： みなさんからいろいろな意見を伺うということもできますが、それだと「あんなものがあったりこんなものがあると楽しいよね」で終わってしまう。提案があってもそれは法令の関係でだめですというだけの話になってしまう。議員連盟等で一定の方向性が出されて、それを踏まえて来シーズン以降を考えるとこの話の方がいいかもしれない。

中塚： 基本的には都内でシンポジウムを考えている。時期的にはいつごろがいいか。

本多： ターゲットとしてどんな人に集ってもらいたいのか。

両角： クラブネッツとのタイアップみたいなのはあるのか。

中塚： クラブネッツあたりとの共催がいいかもしれない。

熊谷： クラブネッツの理事をしているので話しをつけてみます。

両角： パネリストとしては、援助をもらい成功しているようなクラブの関係者にお願いしたい。かながわクラブは、かなりうまくいっているのではないですか。神奈川県庁に勤めている茅野さんに頼んでみては。

中塚： 茅野さんはサロンの会員ですよ。

期日について、ここでは決められそうにないので、詰めるべき中身だけを決めておきたい。10 月のはじめに開催する。候補としては 10 月 2.3 日または 9.10.11 日のあたり。クラブネッツとの共催を視野にい

れる。テーマは「地域スポーツを考える～totoを生かすために」。

熊谷：クラブネットはそのままでは取り扱っているテーマと合わないので、サロンとしてなぜこの話題を持ち掛けたいのかという背景をもう少しうまく説明できないとうまく伝わらない。

中塚：もともとサロンは、「サッカー・スポーツを通じて21世紀の"ゆたかなくらしづくり"を目指すことを志としている」ものであって、ワールドカップのための組織はない。ワールドカップを終えて、去年のシンポジウムでも「地域で育てるこれからのスポーツ環境」を取り上げて、その話の流れから、「地域でスポーツを育てていくにはどうしたらいいか」を考えた際、totoを取り上げる必要があるだろうということでした。

高橋：プレジデントのレベルとしてはここまでやらなくては進まないよ、とう話の流れにすればいいのでは。生活を豊かにするために、totoは起爆剤として大事だよと認知した上で、そしてそれを使いどこまで展開できますという形でシンポジストをお願いする。

中塚：考え方として、サロンのシンポジウムにクラブネットに共催という形で入ってもらい、情報をクラブネットの方々にも流してもらおうというスタンスでいいのかな。

高橋：クラブネットに行政系の動きを入れるような感じで。

中塚：この件の実働部隊には麻生さんをお願いしたいと思います → 了解

出張サロン in 成岩は高橋さんの担当でお願いします → 了解

面白そうなのでみんなで行きましょう。本多さん関西でどうですか？

本多：二つネタがあります。一つは、滝川第二高校の黒田先生とサロンのメンバーの賀川浩さんと、兵庫サッカー関係の若手中学高校のサッカー指導者を集めて3ヶ月に1回くらい会を開いている。そこでは指導を中心にやっているが、東京都のユースリーグの話と一緒に、ユース世代についてやるのはどうか。もう一つはフットサルで、今年は世界選手権なので、その世界選手権に絡めてこれまでいろいろ出てきている登録制度の話もありつつ、11月の世界選手権を盛り上げようという形でやったり、11月の報告会という形でやったりするのはどうかと考えている。

中塚：日程のこともあるので、持ち帰ってもらって日程をつめてやりましょう。

6～7月あたりに、話題を出したい人いますか、もしくは担当者。

麻生：6～7月あたりにできるが、いい内容が思いあたらない。

中塚：「サッカーと英語」はどうですか。ワールドカップで日本にやってきたイギリス人でそのまま日本に居ついてしまったスティーブンさん（サロンMLでも紹介済み）が、子どもたちに英語とサッカーを教えようという試みをしている。彼の友達のスコットランド人ブライアンさんも来日して、先週、筑波大学附属高校で一度やってくれた。そういつて動きもあるので取り上げてはどうか。

高橋：成岩スポーツクラブでも英語とスポーツを取り入れている。成岩の場合は、名古屋大学の、スポーツがある程度わかる外国人留学生を雇って派遣するというビジネスモデルで計画している。

麻生：いまやっているのも、基本的には教える人がきちんと講習を受けて、それなりの資格を持った人がやっている。問題も出てきているので、いいものを提供できるようにということ考えながらやらなければならないと思われる。

中塚：麻生さんに6～7月のどちらかを担当してもらおう。もう片方は、ユーロがあり宇都宮さんが行くはずなので、その報告会をやってもらおう。その他のテーマとして、セパタクローはどうですか。

伊藤：機会があればやりたい。どういった形がいいのか。サッカーやっていた方に違いを分かってもら

うとう感じでいいのか。セパタクローはサッカー崩れがやるというネガティブなイメージがある。確かにそれは真実ですが。きちんとセパタクローの練習をしなければ勝てないということをやりたい。機会があったらみなさんに体験していただきたい。

中塚：うちの体育館では授業の実践歴がある。伊藤さんの関係でセパタクローの日本代表選手に来ていただいて授業をした。セパタクローについてもぜひ今年度中にやりましょう。

#### 4. 情報発信

##### 1) サロン 2002 通信

サロンの通信は従来通り、通信は組織のコアになってくるところなのでやっていきたい。

##### 2) メーリングリスト

従来通り。2月の月例会でも話しに出たが、どんどん活用して、身近にあった「ちょっといい話」でも出してもらいたい。

##### 3) サロン 2002 オフィシャルサイト

本多：安藤さんからの提案でロゴを作ってどうかという話があります。アートとスポーツという話もあるのでそういうところと連動でやりたい（あとで議論）。

<予算（案）>報告者：川井

#### I. 収入の部

2004 年度予算は、会費受入 116 名。毎年一口以上振り込んでくださる方もいらっしゃるので 270,000 円になります。それに雑収入と前年度繰越金をいれて合計 470,000 円で予算を組んだ。

#### II. 支出の部

1. 事業費：月例会補助は実績がないが、出てくる可能性はあるので5万円。プロジェクトは実績を踏まえての額（100,000 円）になっている。

2. 印刷製本費：名簿の制作費で 65,000 円

3. 通信運搬費：サロン通信の経費 70,800 円と名簿郵送料 24,780 円で、合計 95,580 円。

4. 借損料：会場費など 10,000 円

5. 雑務経費：メーリングリストの契約費・振込み手数料など 10,000 円

6. 事務費：30,000 円

7. 予備費：不足分を補う 109,420 円

支出合計 470,000 円

中塚：通信運搬費の名称を改めた方がいいかもしれない。謝金くらいがいいかも。支出の根拠がない。作業費として払っている。事務費とか。

川井：事務費は、旅費などで出した方がいいかもしれない。会費制にして4年目であるが、その部分の支出は発生していない。場合によっては旅費も出していいと思う。明確に課目ごとに出すと後々会計上

どうかとも思った。

中塚： サロンは通信が中核であるということを考えると、通信運搬がなく全部事務費というのもどうかのとも思う。従ってこの原案で通し、総会での指摘があったため引き続き検討していくという方向でいく。

### 審議Ⅲ. これからのサロンの方向性について

#### 1. 会員登録・会費納入方法について

同志による"ゆるやかなネットワーク"を維持しながら、"組織化"を進めていくにはどうするか（会費の自動引き落とし制導入の検討/幅広い会員募集）。本年度は、退会の意思表示をしない限り会員が継続されるという形で、できるだけ志を同じにする人をこのネットワークにとどめることとした。しかし、へたをすると学会の会員や同窓会と同じで、自分が会員かどうかもわからず、当事者意識が薄れてくるのがこわい。年度ごとに何らかの踏み絵のようなものが必要ではないかと感じている。そういったことを踏まえた会員登録方法・会費納入方法を検討したい。昨年度末の役員会で、「会費の自動引き落とし制度」を2005年度から導入しようではないかという話がある。参考になるのが、日本フットボール学会の方法で、入会と同時に自動引き落としの手続きをし、毎年会費が引き落とされる形になっている。こういうことはできないだろうか。

両角： 自動引き落としには、現実問題としてコストがかかる。1割くらい。

中塚： コストもあるが継続性の問題がある。このことに関しては、日本フットボール学会の立ち上げから中心的に関わっている安松さんを中心に検討してもらいたい。高橋さんも私もフットボール学会の理事なので、相談して話をつめていく。会費は2000円よりも高く設定するのがよいのではないか。もしくは、大人の会員は自動引き落としで2000円より高く設定された会費を払い、お金はないがこのネットワークにかかわり、いずれ Give and Take できるようにと考えている学生会員には2000円くらいの会費で入会できるという二段構えという方法もある。多少ややこしいが。

山中： 学生を考えたらやはり2000円ぐらいがいい。4000円にすると気軽に入れる感がなくなるかも。

中塚： 安松さん中心に検討してもらいたい。

#### 2. 代表者と役員を選出方法

シンプルな規約であるが、決めるところは決めている。そのかわり付則がある。例えば、「付則3 2004年度の代表は、第8条第1項の規定にかかわらず、中塚義実とする」。これは規約をつくった最初の段階で決めていたものだが、それが4年たってもそのままになっている。このままでいいのか。毎年総会で出て持ち越しになっている。

中塚： 付則3はどうも規約になじまない感じがするが。

本多： 誰ができるのかという話になると、中塚先生になる。今年は、第2の中塚先生を探していくために若手の新しいメンバーを選びましたという事で、一つここの付則を将来的になくしていく手は打てたか

なという感じはある。そういう意味で、「手は打てたからこれからどうしていくか」とするか、「今年は手が打てたのでこれはこれで残しておこう」でもいいと思う。

両角：当初は役員会も組織もない中で、規約と同時発足で代表も決めてしまおうとやったのでこの付則を作っていたので、2年目以降は別のやり方があったかもしれない。今回、理事という名前にした。理事長というのはだいたい理事会で選ばれる。もっと総会の権限を強めるならば、理事会で選んだ理事を総会に報告するくらい。つまり理事はみんなですべて選出する。なので、付則4はもうだめです。

中塚：付則3・4ですね。

両角：しかし、役員選挙規定がない。

中塚：選挙をすることになると、いろいろと決め事ができてややこしくなる。例えば今回の出席確認のように、総会の返事をしてもらうときに理事として推挙する人の名前を挙げてもらうことはできる。

高橋：投票になると、集計や選挙管理委員会が必要になってきてしまう。一番簡単なのは、前年度の理事会または役員会で、次年度の役員になる人をリストアップしてもらい総会の承認をもらう。

両角：次年度やったものを規定化してしまう。パターンを明瞭化するために規定案作ります。

高橋：今年の代表はもう承認されている。次年度に向けて今年度中に役員選挙に対する規定を練り上げておくということですね。

→ 両角氏が「役員選考規定」の草案をつくる

### 3. 組織として今後どのように進めていくか（事業内容の検討等）

高橋：サッカー協会を含め最近の指導者テキストが変わってきている、その中でマネジメントという新しい部分が入ってきている。経営者のビジネスノウハウについても教えるようになってきている。できれば8月に合宿などを設け、亜細亜大学の横山先生によるビジネスの授業を受け、感想などアイデアを出してもらう会があったらいい。CD-ROMのビジネスMBAソフトなどを使ってビジネスマンのノウハウを知る、SONYでは新入社員研修で使っているらしい、そういうレベルの話もサッカーコーチが知るべきだというくらい進んできている。

中塚：夏合宿をやりましょう！

### 4. その他ーサロン2002のロゴを作ろう！（提案者・安藤裕一）

安藤：ロゴを作るにはある程度意味があった方がいい。サロンの一つのテーマは、豊かな地球・豊かな日本であるので、地球の〇とボールと、豊かさをイメージした緑に、サロン2002と入れてロゴの案を作ってみた。デザインの専門の人にもっといいのも考えてもらいたい。例えば、サロンが共催しているサッカーのイベントがあったら必ず載せてもらうという形で少しでも大衆の方々の目にも触れてもらえたら（2004年度 サロン2002 総会資料 p7 参照）

中塚：3月のお出かけサロンで、アートイベントの一貫でやった時に「ロゴがあった方がいい」という話になった。その時はHPから拾ってきた「サロン2002」という文字を用いた。何らかのロゴを作ることがここで確認されればいいのかと思う。

両角：コンセプトとして「ネットワーク」が入った方が良いのでは。志のなかにも幅広いネットワークという言葉があるので、志をベースにしないとシンボルとしてのロゴにならない。

中塚： ゆたかなくらし・ネットワーク・サッカー・スポーツ・国籍を超えた（地球）がコンセプトになる。夏くらいには決めたい、秋のシンポジウムに向けて。安藤さんのほうからメーリングリストで投げかけて頂けますか。

<まとめ>

- ・議事録は6月のはじめには会員に流せるようにする。
- ・ロゴは、議事録の流れとは別に安藤さんからメーリングリストに流してもらおう。
- ・規約の見直しに関しては、両角さんを中心に文言の手直し案を作ってください。

役員会はそれを受けて、役員会の中で議論する。そのプロセスの中で会員に投げかけて意見だけもらうようにする。

・議事録が会員に送られるのと同じ時期に、規約の修正案が送られ会員に意見を求める。しかし、最終的な決定は理事会にお任せくださいということにする。6月のはじめには規約の名称が変わっているところに関してはもう一回流せるようにしたい。